

営農企画部

# 第4回土壌肥料技術研修会 (応用)開催

12月12日、JA福島ビル多目的ホールにおいて、営農・購買・渉外業務の担当職員を対象とした「土壌肥料技術研修会」を開催しました。7月25日に開催した「基礎コース」に続く今回の「応用コース」には18名の受講生が参加しました。

作物に必要な養分である窒素・リン・カリウムなどの生理作用や欠乏・過剰による影響、土壌分析結果表の見方と肥料成分の過不足の計算方法、土壌pHの高低により石灰資材を選択する方法などを学習しました。



グループ別の演習では、養分が若干不足しているホウレンソウ土壌と、養分過剰のトマト土壌の分析結果の例を基に、「施肥設計の手順」をもとに肥料を選択し、改良目標値に沿った施肥設計書を作成、代表者による発表を行いました。

研修後のアンケートでは、新人担当者が多いこともあり、農業の研修や、営農関係の研修であれば何でも参加したいという積極的な意見がありました。

今年度で4年目となる研修会ですが、受講希望者が多いことから、来年度も開講を予定しています。

### 施肥設計の手順

- ① pH ..... pHの高低により、使用する資材を決める。
- ② E C ..... 窒素肥料の成分量や施肥量を決める。
- ③ リン酸 ..... リン酸肥料の成分量や施肥量を決める。
- ④ 加里 ..... 加里肥料の成分量や施肥量を決める。
- ⑤ (鉄) ..... 鉄肥料の成分量や施肥量を決める。
- ⑥ (ケイ酸) .... ケイ酸肥料の成分量や施肥量を決める。
- ⑦ 苦土 ..... 苦土肥料の成分量や施肥量を決める。
- ⑧ 石灰 ..... 石灰肥料の成分量や施肥量を決める。
- ⑨ 微量要素 .... 微量要素肥料の成分量や施肥量を決める。

2月にお届けする材料を使用したレシピです

JA 福島 営農企画部  
おすすめレシピ

## 坦々ごま味噌鍋



### 材料

- ・坦々ごま味噌鍋 (麺入り) ..... 460g
- ・えのき ..... 200g
- ・食材豆腐 (鍋) ..... 1丁
- ・ごぼう ..... 1/2本
- ・人参 ..... 1/3本
- ・ほうれん草 ..... 1/4束
- ・水 ..... 800cc

### 作り方

- ① 坦々ごま味噌鍋は解凍する。
- ② えのきは軸を除いて食べやすい大きさにほぐす。豆腐は水気をしっかりと切って8等分、ごぼうはさがきにして2分水にさらし、人参は短冊切りにする。
- ③ 鍋に水 (分量外) を入れ、沸騰したらほうれん草を入れて2分茹でて水に取り、3~4cmの長さに切って水気を絞る。
- ④ 鍋に水と添付のスープを入れて熱し、沸騰したら豚肉と麺、②と③を入れ、中火で5~6分煮込む。

- 材料は1人分が基準になっております。
- 盛付例はイメージです。
- ※ 材料の野菜がない場合は家庭にある好きな野菜をお使い下さい。

## 東北地方の長期予報

### <予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

東北日本海側では、平年に比べ曇りや雪の日が少ないでしょう。東北太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、東北日本海側で高い確率70%、東北太平洋側で高い確率60%です。降水量は、東北日本海側で平年並または少ない確率ともに40%、東北太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、東北日本海側で多い確率50%、東北太平洋側で少ない確率50%です。東北日本海側の降雪量は、少ない確率60%です。

週別の気温は、1週目は、東北日本海側で高い確率60%、東北太平洋側で平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、高い確率70%です。3~4週目は、高い確率50%です。

### <気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

項目	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
1月25日~2月24日			
【気温】東北日本海側	10	20	70
【気温】東北太平洋側	10	30	60
【降水量】東北日本海側	40	40	20
【降水量】東北太平洋側	20	40	40
【日照時間】東北日本海側	10	40	50
【日照時間】東北太平洋側	50	40	10
【降雪量】東北日本海側	60	30	10

### <気温経過の各階級の確率(%)>

項目	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
1月25日~1月31日 東北日本海側	10	30	60
1月25日~1月31日 東北太平洋側	20	40	40
2月 1日~2月 7日 東北地方	10	20	70
2月 8日~2月21日 東北地方	20	30	50

凡例: ■ 低い (少ない) ■ 平年並 ■ 高い (多い)  
(仙台管区気象台 発表)

## 編集後記

2月は春が始まる最初の月です。農作業も田の耕耘 (こうろん) や枝の剪定などで忙しくなってきます。

ところで、日本の稲作は弥生時代 (紀元前3世紀~紀元後3世紀) に始まりました。この時代は銅鐸 (どうたく) などの青銅器が作られました。銅鐸には亀やトンボ、ヤモリ、弓を射る人などの様ざまな絵が描かれています。今まで、この絵が何を意味するのか分かりませんでした。

最近になって、この絵を解説した人が本を出版しました。香川県出土の銅鐸には、「日とともに鐘い響く豊恵 (ゆえ) (太陽に豊かな恵みがもたらされることを祈って鐘を響かしましょう)」と書いてあるそうです。(相馬龍夫著「日本古代文字の謎を解く①」)  
古代の日本人も現在の50音で話をしていたようです。

## 今月の主な行事予定

2月5日	園芸部	養蚕振興セミナー
2月7日~8日	畜産部	JAグループ肉牛振興協議会全体研修会
2月13日	畜産部	JAグループ和牛繁殖農家全体研修会
2月18日	燃料部	JA-SS運営者研修会
2月19日	畜産部	JAグループ福島酪農協議会全体集会
2月25日	米穀部	ふくしまの米 求評懇談会

### ラジオ福島

## 「農家の皆さんへ」

午前5時15分~25分  
放・送・予・定

2月3日	畜産部	生乳販売情勢について
2月4日	園芸部	種苗情報 (春まき種子)
2月10日	生産資材部	農業機械レンタル事業について
2月11日	米穀部	多収穫米について
2月17日	営農企画部	JAグループ福島GAP推進状況について
2月24日	管理部	ホワイト物流について

米穀部

## 多収穫米の収量調査について

### 1. 米の業務用向け契約栽培米の収量について

令和元年度で最も収量が高かったのは、会津坂下町の「ちほみのり」で10a当り729kgでした。昨年の734kgには及びませんでした。700kgを超えました。ほかの収量については以下の通りです。

品種	生産者数	最高反収	全体	会津平	会津山間	中通り	浜通り
ちほみのり	26	729	729	667	703		
ゆみあずさ	12	727	675	727	673		
ほしじるし	6	651			651		
全体	44	729	729	727	703	651	

注) 最高反収は600kg以上を掲載。生産者数は、複数品種作付者を含む。

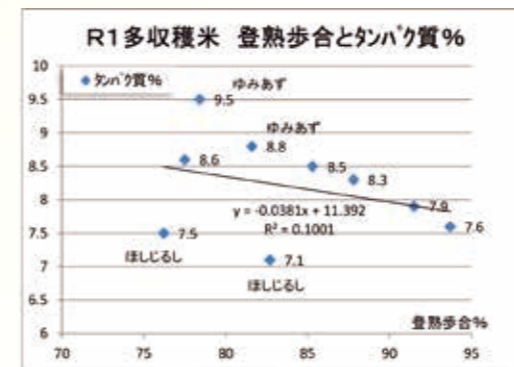
### 2. 収量が多かった栽培内容

- ① 施肥量は、窒素成分総量で10kg/10aであること。
- ② 基肥+追肥体系で収量が高い傾向がある。
- ③ 基肥一発肥料タイプでは、堆肥の施用、鶏糞 (100kg/10a) + 秋耕、土壌改良材の施用など土づくりの励行。

### 3. 減収の原因

- ① 雑草が繁茂し、養分が雑草に奪われ収量が減少した。

- ② 葉色がさめた時に追肥をしなかったことや追肥が遅れたこと。
- ③ カメムシの多発により色選をかけて減収になったこと。
- ④ 6か所の展示圃の分解調査から分かったこと
- ⑤ 登熟歩合が高い米は、タンパク質含有量が低下する傾向にあるということ。



登熟歩合の高い米を作ると、たんぱく質含量が下がり食味向上が期待できる (注) 品種名がないものは、ちほみのり、ほしじるし、浜通り、他は会津と中通り